opusdei.org

17. イエスはローマ 帝国に対して、どの ような態度をとりま したか?

「どうお思いでしょうか、お教えください。皇帝に税金を納めるのは、律法に適っていないるでしょうか」

2016/09/28

イエスが生きた世界が社会的にも政 治的にも複雑な様相を呈して、しば しば緊張があった中で、イエスが最 初にローマ帝国を公に拒否する表明をせず、また無批判に受け入れもしなかったことは注目に値します。

三つの共観福音書の中には、あの意 味深長なエピソード記録されていま す。ファリサイ派の人々はヘロデ派 の人々と示し合わせて、イエスに狡 猾な質問をし、言葉じりをとらえて 罠にかけようとしました。「『先 生、わたしたちは、あなたが真実の 方で、真理に基づいて神の道を教 え、だれにもはばからない方である ことを知っています。人々を分け隔 てなさらないからです。ところで、 どうお思いでしょうか、お教えくだ さい。皇帝に税金を納めるのは、律 法に適っているでしょうか、適って いないでしょうか』。イエスは彼ら の悪意に気づいて言われた。『偽善 者たち、なぜわたしを試そうとする のか。税金に納めるお金を見せなさ い。』かれらがデナリオン銀貨を もってくると、イエスは、『これ

は、だれの肖像と銘か』と言われた。彼らは、『皇帝のものです』といった。すると、イエスは言われた。『では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい』」(マタイ22, 16-21)。

かかる挑発に直面して、イエスは神の国と地上の国家とを混同されることはありませんでした。イエスは、地上の国家は共通善を秩序付ける組

織として認められるものであり、そ のために税金を徴収することなども 認めていたのです。しかし、国家の 権力は絶対的なものではありませ ん。当時のローマ世界では、皇帝に 対して神的な崇拝がささげられてい ましたが、イエスは、国家にこの権 威を認めませんでした。皇帝にでは なく神に帰すべき事柄があるので す。世俗的機関と宗教的機関はお互 いに混じり合ってはならず、自ら責 仟のない事柄には口をはさむべきで はなく、お互いの分野を尊重し調和 を図るべきであるとイエスは教えま した。

初期の多くのキリスト教徒は、彼らが生活している社会の建設のために普通の市民として生活していました。しかし、不当な法律が彼らに神を尊重しないことを強いる場合には、殉教をもって信仰を証したのです。これこそ、イエスの言葉の正しい解釈と言えます。

参考書: José María CASCIARO, Jesucristo y la sociedad política (Palabra, Madrid, 1973) 83-87; J. GNILKA, Jesús de Nazaret, Herder, Barcelona 1993; A. PUIG, Jesús. Una biografía, Destino, Barcelona 2005; Francisco VARO, Rabí Jesús de Nazaret (B.A.C., Madrid, 2005).

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/iesushitsumon-17/ (2025/12/12)